

2021年9月26日

主日礼拝

《礼拝》

礼拝讃美歌⇒139番（旧48番）

『神の子羊』

聖書⇒ローマの信徒への手紙 1:1~6節（SK兄）

『キリスト・イエスの僕、神の福音のために選び出され、召されて使徒となったパウロから、——この福音は、神が既に聖書の中で預言者を通して約束されたもので、御子に関するものです。御子は、肉によればダビデの子孫から生まれ、聖なる霊によれば、死者の中からの復活によって力ある神の子と定められたのです。この方が、わたしたちの主イエス・キリストです。わたしたちはこの方により、その御名を広めてすべての異邦人を信仰による従順へと導くために、恵みを受けて使徒とされました。この異邦人の中に、イエス・キリストのものとなるように召されたあなたがたもいるのです。——』

礼拝讃美歌⇒249番（旧250番）（SK兄）

『天なる喜び』

聖書⇒エレミヤ書 29:11:章（ES姉）

『わたしは、あなたたちのために立てた計画をよく心に留めている、と主は言われる。それは平和の計画であって、災いの計画ではない。将来と希望を与えるものである。』

礼拝讃美歌⇒365番（旧242番）（ES姉）

『ただ主を讃えて』

《パン裂き》

聖書⇒コリントの信徒への手紙一 11:23~26:節（KH兄）

『わたしがあなたがたに伝えたことは、わたし自身、主から受けたものです。すなわち、主イエスは、引き渡される夜、パンを取り、感謝の祈りをささげてそれを裂き、「これは、あなたがたのためのわたしの体である。わたしの記念としてこのように行いなさい」と言われました。また、食事の後で、杯も同じようにして、「この杯は、わたしの血によって立てられる新しい契約である。飲む度に、わたしの記念としてこのように行いなさい」と言われました。だから、あなたがたは、このパンを食べこの杯を飲むごとに、主が来られるときまで、主の死を告げ知らせるのです。』

礼拝讃美歌⇒142番（旧 58番）（KH 兄）

『渡されたもう』

《建徳》

聖書⇒創世記 50:15~21 節

『ヨセフの兄弟たちは、父が死んでしまったので、ヨセフがことによると自分たちをまだ恨み、昔ヨセフにしたすべての悪に仕返しをするのではないかと思った。そこで、人を介してヨセフに言った。「お父さんは亡くなる前に、こう言っていました。『お前たちはヨセフにこう言いなさい。確かに、兄たちはお前に悪いことをしたが、どうか兄たちの咎と罪を赦してやってほしい。』お願いします。どうか、あなたの父の神に仕える僕たちの咎を赦してください。」これを聞いて、ヨセフは涙を流した。やがて、兄たち自身もやって来て、ヨセフの前にひれ伏して、「このとおり、私どもはあなたの僕です」と言うと、ヨセフは兄たちに言った。「恐れることはありません。わたしが神に代わることができましょうか。あなたがたはわたしに悪をたくらみましたが、神はそれを善に変え、多くの民の命を救うために、今日のようにしてくださったのです。どうか恐れなくてください。このわたしが、あなたたちとあなたたちの子供を養いましょう。」ヨセフはこのように、兄たちを慰め、優しく語りかけた。』

聖書⇒創世記 37:6~8、18~20 節

『ヨセフは言った。「聞いてください。わたしはこんな夢を見ました。畑でわたしたちが束を結わえていると、いきなりわたしの束が起き上がり、まっすぐに立ったのです。すると、兄さんたちの束が周りに集まって来て、わたしの束にひれ伏しました。」兄たちはヨセフに言った。「なに、お前が我々の王になるというのか。お前が我々を支配するというのか。」兄たちは夢とその言葉のために、ヨセフをますます憎んだ。

兄たちは、はるか遠くの方にヨセフの姿を認めると、まだ近づいて来ないうちに、ヨセフを殺してしまおうとたくらみ、相談した。「おい、向こうから例の夢見るお方がやって来る。さあ、今だ。あれを殺して、穴の一つに投げ込もう。後は、野獣に食われたと言えよ。あれの夢がどうなるか、見てやろう。』

聖書⇒ローマの信徒への手紙 8:28:章

『神を愛する者たち、つまり、御計画に従って召された者たちには、万事が益となるように共に働くということ、わたしたちは知っています。』

聖書⇒フィリピの信徒への手紙 2:10~11:章

『こうして、天上のもの、地上のもの、地下のものがすべて、イエスの御名にひざまずき、すべての舌が、「イエス・キリストは主である」と公に宣べて、父である神をたたえるのです。』

礼拝讃美歌⇒353番
『わが君イエスよ 浮世の船路』

《建徳要旨》

創世記 50 章 15～21 節：「ヨセフの夢」

ヨセフは兄たちと 22 年ぶりに再会し、自分が弟のヨセフであることを打ち明けたことを 45 章で読みました。ヨセフは兄たちを既に赦していました。恨んでいませんし、仕返しなど考えてもいませんでした。それは普通には有り得ないことです。だから、父ヤコブが死んだとき、兄たちはヨセフの仕返しを恐れました。ヨセフはそれを知って涙を流しました。私たちも兄たちのようです。キリストによって一切の罪が赦されているのに、まだそうでないかのように思っています。だから、何か悪い事が起きるのではないか、罰を受けるのではないかと恐れや不安を抱くのです。

ヨセフの夢：ヨセフの夢は 37 章 6～8、19,20 節。神が与えた夢は、人間が取り去ろうとして悪をなしても、それを神は逆手に取って善、即ち、救いに変えてしまわれるのです。それをパウロは、**神を愛する者たち、つまり、ご計画に従って召された者たちには、万事が益となるように共に働く**ということ、**わたしたちは知っています。(ローマ 8 章 28 節)**と記しました。

ヨセフをイエス・キリストと言い換えますと、ユダヤ人は罪の無いイエスを十字架にかけて殺す恐るべき罪を犯しましたが、神はそれを善に変え、信じる人を救われました。驚くべき事です。十字架上のイエスほど痛ましい姿はありませんが、それは本来、私たちが受けるべき罪の刑罰でした。それなのにイエスがその身代わりとなって死なれたのです。そこに込められた驚くばかりの愛に胸を刺し貫かれます。そして、兄たちがヨセフの前に心からひれ伏し拝したように、私たちは主イエスを拝し、その御前にひれ伏すのです。フィリピ 2 章 10、11 節：これがヨセフ物語の指し示している結論です。どんなに辛く耐えがたい事があっても、神は最後には祝福と賛美に変えてくださるのです。